

令和元年度 陸前高田市文化遺産調査概要報告

次世代教員養成センター 北村恭康

1. 目的

2011年3月11日の東日本大震災及び大津波により、陸前高田市をはじめとする岩手・宮城・福島三県の太平洋岸は大きな被害を受けた。陸前高田市では市民の約1割にあたる人命が失われたほか、市庁舎を始め、市の重要施設が被災し、多くのものを失ってしまった。しかし、幸いにも高台にあった寺の仏像は被災をまぬがれた。この仏像等の文化遺産を調査し、その価値を明確にすることが、陸前高田市や周辺市町村の市民を元気づけることになると考え、本調査団を派遣する。併せて被災地の復興状況を視察し、被災された方から聞き取りを行い、現地に学ぶ防災教育を開発する。

2. 日時 令和元年9月13日(金) ～ 16日(月)

3. 参加者 学部生 : 坂本和音、北 将伍、平山あかり、村上 朋、加藤真由
 大学院生 : 濱松佳生
 大学教員 : 山岸公基、北村恭康

4. 宿泊地 民宿沼田屋 (陸前高田市米崎町字川内 179-2)

5. 日程・活動

	ESD・防災教育班	文化遺産調査班
13日	<ul style="list-style-type: none"> ・新宮寺(名取市高館熊野堂岩口上 51) 文殊菩薩像拝観 ・熊野那智神社(名取市高館吉田館山 8) 見学 同所より閑上地区を望む ・陸前高田市教育委員会表敬訪問 	
14日	<ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市震災遺構見学(米田小学校、奇跡の一本松、気仙中学校、気仙小学校跡地) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・吉浜の津波石探訪(大船渡市三陸町吉浜) ・大船渡市津波伝承館(大船渡市大船渡町字茶屋前 7-6 防災観光交流センター内) 	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷寺(大船渡市猪川町字長谷堂 127) 阿弥陀如来坐像調査
15日	<ul style="list-style-type: none"> ・正徳寺住職(千葉了達氏)より聞き取り 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館(気仙沼市波路上瀬向 9-1 旧向洋高校)見学 ・津波の気仙川遡上ポイント探訪(陸前高田市横田町友沼) 	<ul style="list-style-type: none"> ・正徳寺(陸前高田市小友町両替 69) 聖徳太子立像調査
16日	<ul style="list-style-type: none"> ・一関市博物館「木造観音菩薩像とその周辺」展見学(一関市巖美町字沖野々 215-1) ・毛越寺(西磐井郡平泉町字大沢)、中尊寺等拝観(西磐井郡平泉町平泉衣園) ・正法寺(奥州市水沢黒石町字正法寺 129) 拝観 	



熊野那智神社より閑上地区を望む



長谷寺：阿弥陀如来坐像調査

6. ESD・防災教育における今回の調査目的について

今回文化財調査をさせていただき正徳寺（陸前高田市小友町両替）が、東日本大震災時、急遽避難所となり150名近くの人が生活を送っておられたとのことであったので、避難所運営の実際について正徳寺住職の千葉了達氏から聞き取りを行った。それと共に陸前高田市教育委員会教育長金賢治氏からも貴重な話を聞く機会を得た。

(1) 千葉了達氏（正徳寺住職）からの聞き取り

正徳寺は標高40mの高台にあり、津波被害からは免れていた。住職の千葉了達氏は市の職員であったので、災害時は担当地区の住民を正徳寺近くの両替公民館へ避難させることであった。しかし、両替公民館は津波に流されたので、さらに高台にある岩井沢公民館に住民を避難させた。この公民館は100名以上避難してきた人を収容するには狭く、眠ることもできなかった。このような中で正徳寺の檀家さんから、寺の庫裏を貸してもらえないかと申し出があり、3月11日の夕方から庫裏を開放することになった。そこで、聞き取りから以下の2つについて考察を加えていきたい。

○避難所として成り立った理由

・避難してきた人たちは、生後数か月の乳児から90歳以上の人まで、150人ぐらいであった。その中には、水産関係で研修生として来日していた外国の方もいた。

・避難した当日から米を炊きおにぎりを作って配った

と話されている。津波によりライフライン被害が大きいにも関わらず、これらができたのには、水があり、火が使えたことになる。住職は、

- ①山から水を引いている自家水道があった
- ②都市ガスではなくプロパンガスであった。
- ③電気が通じたのは1か月ぐらいたってから
- ④トイレは簡易水洗なので使えた。
- ⑤反射式ストーブを残していた。

などを話された。このことから、避難所としての設備面をみると、

・水がある⇒炊事、トイレが使える
・トイレの数⇒檀家さんが集まることもあり、男子小便器3つ、個室5つあった
・プロパンガス⇒炊事ができる
・反射式ストーブ⇒電気を必要としないので、ライター、マッチ、乾電池などがあれば点く
つまり、ライフラインの重要な水・ガスそしてトイレが確保できているのである。トイレについては、複数あったのがよかったと考えられる。また、寒さが厳しい中、通電を必要としないストーブがあったことも避難者が暖を取るのに役立った。これら4つのことがそろっていたので、150人もの避難生活ができたと考える。現代の生活では災害時停電、断水をすると冷暖房機器、炊事、トイレなどが使用できなくなる。毎年各地で自然災害が発生し、避難所生活・自宅での避難生活を余儀なくされている人々が多数いる。特に問題になると思われるのは、トイレのことである。避難所に指定されている施設のトイレのほか、仮設トイレ、マンホールトイレ等を各自治体が設置あるいは保有していると思われるが、各個人宅においても、断水すればトイレが使えなくなるという前提で、簡易トイレを備蓄するものの中に入れておくべきであると考えられる。

○避難所生活と役割

・自分の家がどうなっているのか見に行かれるが、家も流されすべてがなくなっているのを見て、



千葉了達氏からの聞き取り

がっかりして帰ってくる。

- ・男性陣は玄関の石の上に座って下を向いて落ち込んでいる。女性陣は100人以上の人にどうやって食事を与えようかと考えふまっているの、立ち直りが早かった。
- ・男性陣には焚きつけにする木を集めてきてほしいと、仕事を与えた。
- ・自分たちで仕事を見つけてやってもらった。
- ・食事の当番表、水くみ、トイレ掃除等それぞれの役割分担ができた。

と言っている。これらのことから、人は役割があると動き出し、自分のできることをやり始めていくものであり、一步を踏み出せるものとする。また、大規模な避難所になればなるほど、個人の役割や自分から動くことが少なくなり、ずっと被災者、避難者のままで「～してもらおう」になってしまわないだろうか。そうならないためにも、それぞれが役割を持ち動ける避難所の運営や避難所の適切な規模も考えなければならない。

正徳寺が避難所になってからは支援物資が届けられるが避難所の分だけではない。近所の自宅避難者の分も含まれている。それを避難所の人たちが仕分けをして渡すのである。つまり、家のない人たちが、家のある人たちの分まで仕分けをするのである。誰がする、しないとっているのではない。自宅避難者もみんなと仕分けなどを一緒にすれば、立ち直りが一刻でも早く、前に進めるようになるのではないだろうか。

(2) 陸前高田市教育委員会教育長金賢治氏の話から

金賢治氏は我々が訪問した際 ①「文化財のレスキュー」②「防災教育」③「自助と共助」の3点について話されたが、ここでは②③について掲載する。

学校の防災教育

あの時両親を亡くした子供は22人、片親を亡くした子どもたちは150人ぐらい。突然親を亡くす経験をした。何に苦しんでいるかといえば喪失感。子どもを亡くした親もたくさんいて、喪失感に苦しんでいる。8年たってみんな元気になったのかといえば、元気になったとみられる人もいるけど、みんな言わないだけで昔の街並みを失くしたという喪失感、大切な人を亡くした喪失感もある。町がどんどん生まれ変わっていききれいなものが建ってくるんだが、ただ心の中で失ったもの喪失感だな。心の中で上がってきたり、落ちてきたりしているのかなと思います。喪失感とは時間がたてば薄れてくるかといえば全然違う。時間なんか関係ない。なぜ喪失感の話をするかといえば、ここで災害があって亡くなってから喪失感が生まれる。だから、亡くならないためにこれから何をしたらよいか、これからの大事な話になる。

教員によく話をしているのは、「学校にいる子どもたちを災害から守るだけの防災教育をしていますが」とよく言う。学校にいる時に、地震きた、火事なった時に子どもたちをどう守るかという防災教育を全国的にやっていると思うが、親を亡くした子供のその後の人生を考えると、親がなくなるとダメ。学校にいる間にその子は助かっても親がなくなってしまったら、助かった子どものその後の人生を考えたら普通に生きていけない。喪失感の中で生きていく。子どもを守るという視点は2つある。

① 学校にいる時の子どもの命を守る。(全国で指導している)

② 親だって亡くなったらダメなんですよ。この子の人生を守るために。

我が子のために親も逃げてくださいますかということが大事ではないのか。それは、この町で親を亡くしたたくさんの子どもの見てきたから思うことである。

学校の防災教育はこの2つの視点が大事ではないのだろうか。

子が親を、親が子を亡くした喪失感、それぞれの今後の生き方にのしかかってくる。だから喪失感を生まないためには、親も亡くならないことであると述べている。学校において「子どもを守る」という考えの中に②の視点からの防災教育はなかったのではないだろうか。災害はいつどこであうかわか

らない。また、家族が一緒とは限らない。そのために防災教育においては、家庭で「災害時の家族の行動」について話し合いを持ち、互いの情報を共有し、命を守る行動をとるようにしていかなければならない。

自助と共助

聞いた話だが、共助 例えば、近所の年寄りに区長さんが声かけて回ってくれてそして高台に逃げてたくさん命が助かったということもある。高田中学校の話だが、揺れの激しい中で、近くの保育所の園児たちが泣いているのを抱っこしながら高台に逃げた。故郷の人たちは、思いやりの心を持ちながら、たくさん命が助かった事実がある。

もう一つの事実があって、ある町の区長さんが家族と一緒に本丸公園に逃げたのだが、だれだれが来てないという話になって、ご主人だけ降りて行って、逃げようと声掛けをしていた。過去にここまで津波が来たことはない。ここまで来たら高田の町は終わりだという話になって、逃げなかった。説得をされていて区長さんは亡くなった。区長さんは共助をしようとして行ったんだけど、逃げようとしない人たちがたくさんいた。それは、油断ですね。ここまで来たことはないから大丈夫だという。一生懸命声掛けをして亡くなった。高田の町のいたるところでそういう事実があったことを聞いている。人のためにやったことでご自身がなくなり、残された家族が出現した。残された家族は、大事な大きな存在であったお父さんを失くした喪失感で生きていく。

私は、仮設住宅に住んでいて、2 部屋隣に亡くなった区長さんの奥さんが住んでいた。私は、学校に勤めていたので帰ってくると、世間話が始まるのだけど、最後は決まって亡くなったお父さんの話になる。「私の父ちゃん人のためにいいことしたんだよね」という確認です。「でも、そんなことをしなくてもよいから生きていてほしかったの」という言葉がいつものことである。町にはこんな話がいっぱいある。感情も含めて、自助と共助はどうあったらいいのか、すごく難しい。テレビなんかで共助は大事だ。助け合おうとっているが。共助で助かった命はいっぱいある、自助でも助かった人もたくさんいた。自助と共助どうあったらいいと思いますか。困っている人を助けよう 頭では分かる。自助と共助って、何なのか考えることが大事だ。



金賢治氏の話聞く

「自助と共助」確かに頭では分かっているつもりでいたが、「区長さんと奥さん」を「自分と親」に置き換えて考えると、難しくなかなか結論が出ないものとなる。だから、自分事として捉える防災教育が大切である。前述の喪失感を生まれないためにも過去の経験からの判断や大丈夫という思いこみではなく、どのような状況になれば避難を始めるのかをひとり一人が主体的に持つようにすることが、誰もが死なない防災教育を作り上げていくことであると考えます。



正徳寺境内



旧気仙中学校・広田湾を臨む



教室に飛び込んだ車
(東日本大震災遺構・伝承館)

(3) 吉浜の津波石

この石は碑文から昭和8年3月3日に発生した三陸大津波で流れ着いたことが分かる。その重量は8千貫約32トン、吉浜川河口から流されてきたと記されている。その後石は埋められ東日本大震災の津波で再び石上部を表し、津波の威力を後世に伝えるために掘り出され保存されている。吉浜地区は吉浜湾に面しているが、東日本大震災の津波被害では被害家屋4棟、亡くなられた方1名という他地域とは一線を画する様相を示した。それはなぜなんだろうか。手元に「みんなの震災学習テキスト 吉浜のつなみ石」という一冊の本がある。この本によれば、この吉浜地区は、明治29年の三陸大津波で大きな被害を受け、初代村長新沼武右衛門が全民家の高台移転を進めた。さらに、昭和8年の三陸大津波後8代村長柏崎丑太郎はさらに高台移転を徹底し今に至っていることが分かる。県道250号線より海側には民家はたっていない、吉浜漁港付近にも民家はない。

住み慣れた場所を離れたい気持ちは分かるが、高台移転を進めた村長、それに賛同した村民たちの先を見越した行動は、令和になっても受け継がれていたことが分かる。さらに驚くことは、漁港近くに家がないことは、高台から通っているということである。この点も、漁業者ひとり一人の津波に対する防災意識の高さを知ることができる。

津波記念石
前方約二百米突吉浜
川河口ロニアリタル石ナル
カ昭和八年三月三日ノ津
波ニ際シ打上ゲラレ
タルモノナリ
重量八千貫



津波石



奇跡の一本松とユースホステル



及川・松坂両氏から説明を受ける



正徳寺での調査



長谷寺での調査